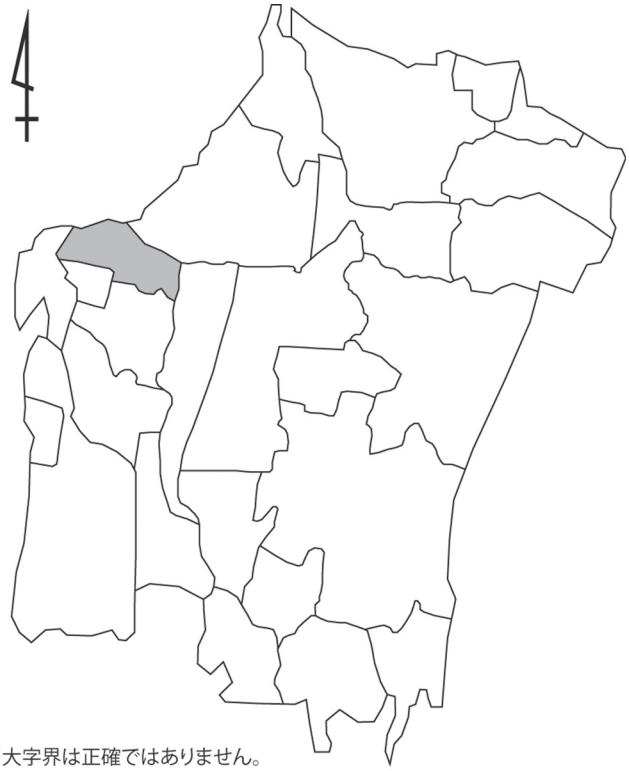
郷土かみのかわの歴史・文化財

上三川の地域と歴史　上神主

上神主は、町域の北西部、田川右岸の低地と台地に位置し、北側は宇都宮市茂原町と境を接しています。地区東側の低地では水田耕作が営まれ、西側の台地ではニラなどの畑作が営まれています。集落は台地上の縁辺部を中心に江戸時代の初めは宇都宮藩領、その後は幕府領から旗本領となり幕末を迎えました。天保年間（1830～1844）の家数は14戸です。石橋宿の助郷役を課されました。

元禄元年（1688）、入会地の境界を巡り、上神主村と下神主村・茂原村との間に訴訟が起こった記録が残っています。この時は、石橋町と雀宮町から仲裁人が入り、62の境塚を築いて、村境を明確にすることで示談となったそうです。



※大字界は正確ではありません。

さて、「神主」という地名は、全国的にも珍しい地名です。上神主と下神主に分かれた所以は不明ですが、今から約500年前の文書にも「神主」の地名が確認できます。戦国時代の真岡城主・芳賀高孝の寄進状写には、「神主郷」の記述がありますが、しかし、「神主」の文字は、さらに古い時代にもみられます。

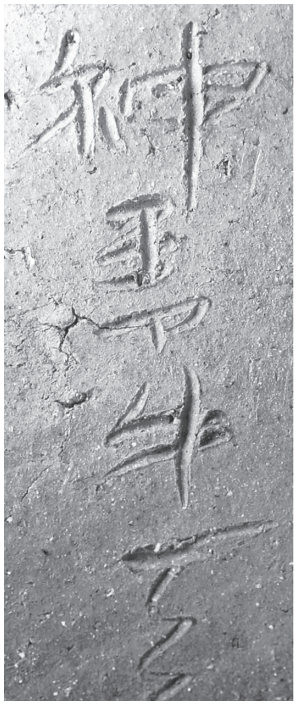
地区の北部に位置する奈良・平安時代の上神主・茂原官衙遺跡（字富士山台）から、「神主部牛麻呂」の氏名が刻まれた瓦が出土しました。このことから、「神主」の地名は、神主部民の居住地であったことに由来するといわれています。

なお、上神主・茂原官衙遺跡は、人名を刻んだ瓦が多く出土することから、かつては古代の寺院跡と考えられていました。その後の発掘調査で、行政の実務を行った政庁跡や米などを納めた正倉跡が見つかりました。その結果、7世紀後半から9世紀にかけての古代河内郡の役所（官衙）跡であることが判明し、平成15年に国の史跡に指定されています。

地区の鎮守・浅間神社は、字富士山台に鎮座しています。創建年代は不明です。神社の社殿は、径58mの円墳の墳頂部に築造されています。ちなみに、この浅間神社古墳の墳頂は、上三川町の最高地点で標高が約86mあります。その名のとおり、昔は富士山を眺めることができたのでしょう。

上神主には浅間神社古墳のほか、後志部古墳・上神主狐塚古墳（ともに字後志部）など計46基以上の古墳が確認されており、それらはまとめて神主古墳群と呼ばれています。

春が来て暖かくなったら、多くの歴史と文化財が残る上神主を散策に訪れてみるのも良いかもしれません。



瓦に刻まれた「神主部牛万呂」の文字
※「マ」は「部」の略称文字です。